

行雲流水

No. 1 8 令和3年4月12日発行

「お辞儀」の文化が生む奇跡

校長 寒河江 正人

以前、山形新聞に掲載されたコラム「談話室」の記事を紹介します。

＜記事＞

「**7分間の奇跡**」。海外メディアは、こう称賛する。

7分間で約100席のゴミを集め、テーブルと床を拭き、汚れた座席カバーを交換する。

1車両の担当は、**わずか1人**だという。

JR 東日本の子会社の**新幹線清掃員**たちの働きである。

作業の手際の良さだけではない。

列車の到着時に「**一礼**」をして出迎え、清掃終了後にも「**お辞儀**」して客に声をかける。

東京駅の新幹線ホームで1列に並び、深々と「お辞儀」をしている光景を見たことがある人も多だろう。

「**その姿**」に感動した外国人たちが、拍手で「敬意」を表すこともあるとか。

以前、日本で開催された「**ラグビーワールドカップ**」に出場している海外選手たちの間で、試合終了後、スタンドの観客に「**お辞儀**」をして「**感謝**」を伝える作法が広がった。

ニュージーランドや本県で合宿をおこなったサモアなどもそうだ。

「**礼**」を重んじる日本人に対する「**日本式でのお返し**」である。

土砂降りでも帰らずに声援を送り続けた観客に、選手らが「**礼**」で「**敬意**」をはらえば、ファンも「**スタンディングオベーション**」で応える。

「**お辞儀**」の文化のない諸外国の選手たちが、勝者・敗者に関係なく、頭を下げる場面は人々の胸を熱くする。

(以上)

「**働くこと**」を通して身につけたい「**本質**」とは、何か。

「**スポーツ**」を通して身につけたい「**本質**」とは、何か。

私たち大人は、子どもたちを前にして、模範となるよう「**そこ**」を間違っ**て**はいけない。